

(案)

尾張旭市総合計画審議会第2部会 報告 (都市整備・環境・教育)

1 開催日及び議事事項

(1) 第1回

① 開催日 令和5年7月7日(金) 13:30~15:00

② 議事

- ・基本目標3及びその施策に関する調査審議

(2) 第2回

① 開催日 令和5年8月1日(火) 9:30~12:00

② 議事

- ・基本目標4及びその施策に関する調査審議
- ・基本目標6及びその施策に関する調査審議
- ・「めざすまちの未来像」「まちづくりの基本方針」に関する調査審議

(3) 第3回(仮)

① 開催日 令和5年9月12日(火) 10:00~11:30

② 議事

- ・部会のまとめについて

※ 各回での意見や提案内容は、別紙のとおりです。

2 部会総括

- ・当部会の審議範囲について、大きな修正点や疑問はなく、全体的に概ね適切であり了承できます。
- ・本部会では、「まちづくりの基本方針」にある言葉や方向性を「施策別指針」にも浸透させる必要があるという意見がありましたので、各施策への反映を検討してください。
- ・部会を通して委員から出された意見や提案に対して、市は、前向きに取り組んでください。
- ・冊子レイアウトを作成する際には、市民が読みやすいよう工夫してください。

総合計画審議会第2部会の意見や提案

1 基本構想（素案）について

- 基本目標4について、「カーボンニュートラル」「コンパクトシティ」などは非常に重要で今後も必要とされるまちづくりの考え方となる。
- これまで大切にしてきた「緑」を大切にしてもらいたい。
- 「幸せつむぐ」と「笑顔あふれる」が同じような言葉である。

2 基本目標及び施策別指針について

(1) 施策3-1 主体的に学ぶ教育の推進

- 「現状と課題」に「食生活などの生活習慣の乱れを改善することのほか」とあるが、食生活が乱れていることが前提となっている。乱れていない家庭もあるため、肯定的な表現としてはどうか。
- 「めざす姿」に「豊かな心と健やかな体を育み、確かな学力を育成できています」とあるが、「主な取組」を単純に見ていくと、3-1-1と3-1-2だけが「めざす姿」に関連する取組と感ずる。「主な取組」の全てを包含するような「めざす姿」として工夫してどうか。
- 「指標」は「目標」となるものであるが、3-1-4「学校支援人材の配置人数」は、配置すれば終わる「手段」に近いものであるため、修正してはどうか。
- 「施策名」と「めざす姿」、「指標」がちぐはぐなため、修正してはどうか。
- 「めざす姿」を達成できたかという指標になっていない。また、「めざす姿」が簡潔過ぎる。現状と同じくらいのボリュームがないと課題が出せないのではないか。

(2) 施策3-2 総合的な教育連携・協働の推進

- 駅前再開発等、市が行う様々なコンペに学生が参加することで、提案が現実になることへの喜びを感じるとともに、学生が「まち」を知ることにつながる。
- 「指標」が3-2-1「コミュニティ・スクールにより学校・家庭・地域が連携した活動回数」であるにも関わらず、「主な取組」に具体的な活動内容がないため、修正が必要である。
- 市民同士で情報交換できることは大切だが、公的な相談機関につないでほしい場合もある。地域との連携の中に、発達障がいやアレルギー、不登校などの専門機関を入れてほしい。

(3) 施策3-3 生涯学び続ける教育の推進

- 「主な取組」の3-3-2「生涯学習施設の環境整備」について、基本構想では、ある程度インフラが整ったため、そこを活用する「人」にフォーカスしているという説明があったため、当然老朽化には対応するが、どちらか

というとハードよりソフト事業を記載するべきではないかと思う。特に地域団体の講座が増えていくような取組を推進できると良い。

- 「主な取組」の3-3-2「生涯学習施設の環境整備」に、「老朽化した施設の今後のあり方を検討する」とあるが、「あり方を検討する」の表現が10年間の計画期間の総合計画には馴染まない。どう対応するのかという次のアクションの方向性を出すことが総合計画の一つの役割ではないか。
- 「指標」に「公民館の利用者数」がある。利用者が多い公民館の分析や共有、議論をすることで、この「指標」を伸ばしていくことができると思う。

(4) 施策3-4 文化・スポーツの振興

- 「主な取組」の3-4-4「スポーツ活動の環境整備」には、「適切に管理します」とあり、施策3-3の「主な取組」3-3-2「生涯学習施設の環境整備」には、「環境を整備します」とある。管理と整備は異なるものであり、体育施設の多くは老朽化しているが、老朽化した施設は「管理」ではなく「整備」ではないか。
- 「主な取組」の3-4-1「文化財の保護・継承・保存」について、「保護」となっているが、維持していただくだけでは、市民の愛着や誇りの醸成にならないため、もっと広がっていくような言葉としてはどうか。
- 3-4-4「スポーツ活動の環境整備」について、ハード整備だけではなく、小中学校の体育館の利活用などをしやすくしてほしい。
- 3-4-4「スポーツ活動の環境整備」について、体育館は、市外の人の利用も多いため、市に来てもらうという視点からも大切となる。「管理」だけではなく「利用促進」を進めてほしい。
- 文化会館利用者から、本市の文化会館の文化ホールは、使いにくいと聞いたことがある。指定管理制度の導入により使いやすくなった点をPRしてほしい。
- 小学校の体育館などの一般貸出は、制限が厳しく、予約ができないと聞いたことがあるため、使いやすくしてほしい。
- 学校関係者以外が施設を利用する状況を開示することで、積極的な利用につながる。
- 公民館で学んだ方がその知識を教える側になる取組が良い。教える立場になる機会を積極的に周知してほしい。
- 有名な選手による教室等があると、こどもたちに夢を与えられ、尾張旭市のPRにもつながる。

(5) 施策4-1 魅力ある都市環境の整備

- 特徴的な空き家の活用をしていると、尾張旭市を訪れる機会となる。
- 公園を再整備する際に、学生が意見を出せる機会があるとよい。
- 水辺の利活用の魅力をSNS等で発信できるとよい。
- 「めざす姿」に「まちづくりの基本方針」の「楽しさ」を感じるができる言葉を入れると良い。
- 都市のコンパクト化には、都市機能を拡散させないことや公共交通の充実

を含めた移動の円滑化が重要であるため、2つ目の「主な取組」の記述を充実させてほしい。または、「現状と課題」の文言を具体化する方が良い。

- コンパクトシティという概念は大きいため、もう少し色々な分野に溶け込ませると良い。
- 公園に屋根のある座れるところがあると良い。
- 公園都市としてのブランドの充実を図るため、駅前の再開発において、遊具を設置してはどうか。
- 既存の公園に対し、遊具の充実などの地域の声を届ける場所を設置してほしい。「魅力ある公園」とは何なのかを市民に聞き、計画に反映してほしい。
- 旭前の新しい公園には緑が少ないと感じる。
- 草が生い茂っている公園は防犯上良くない。防犯カメラなどを積極的に斡旋してほしい。
- 1校区に1つ以上楽しい公園を作してほしい。

(6) 施策4-2 快適な交通基盤の整備

- キックボードやシェアサイクルなどを活用すると良い。
- 歩道の段差が危ないと感じている。「主な取組」の3つ目「交通基盤を支える道路環境の整備」の中で歩道の整備についても触れてほしい。
- 市営バスの積極的な利用方法について、市がもっとPRしてはどうか。
- オンデマンド交通はとても良いと思う。もう少し積極的に前面に出してあげると良い。

(7) 施策4-3 身近な緑・農地・水辺環境の保全

- 最近では農業に携わりたくて移住をする人が多いと聞く。市民農園の事業は農業のスタートアップとして良い。
- 矢田川河川敷を魅力的なものにするため、駐車場の整備を検討する必要がある。
- 「指標」に緑地面積があるので緑地を増やしていく意向がうかがえる。「めざす姿」が「保全」となっているため、豊かな緑を作っていくというイメージを加える必要があるのではないかと感じる。
- 街路樹が切ったままになっている箇所があるが、景観に配慮しながら整備したほうが良いと感じる。
- 三郷駅の再開発を進める際には、木陰があり、うるおいを感じられる空間を増やしてもらいたい。
- 「主な取組」の3つ目の「都市型農業の推進」について、農業従事者、後継者の不足が最大の課題となっているため、そこにもう少し踏み込んだ記載してほしい。
- 市民の取組に「身の回りのものを木製品に変え」とあるが市民だけでなく行政も積極的にウッドチェンジを図る必要がある。「主な取組」の4つ目の「全国植樹祭の理念継承」に「市の公共施設で木製品を取り入れます」という記載をしても良いのではないかと感じる。
- 景観という部分で、田んぼアートやコスモス畑を取組の一つ入れても良い。

- 「主な取組」の4つ目の「全国植樹祭の理念継承」の内容が、「現状と課題」と記述のレベルに差が感じられないため、より具体的な取組内容を記載すると市民により分かりやすくなる。
- 小中学校の給食で地域の農産物が提供されていると聞くのでそれらを取組内容に入れてはどうか。
- 矢田川や天神川など、市内で散歩をしようと思うと、その散歩道が道路で分断されており、横断歩道がない箇所がある。散歩道を部分的に見るのではなく全体で考えるとより良いものになるのではないか。
- 川辺や山辺にある散歩道は、今後のまちづくりの非常に大きなポイントとなるし、出せる部分であるのでしっかりと書き込む必要がある。

(8) 施策4-4 安全で快適な上下水道の整備

- 既成市街地への下水道の普及を進めてもらいたい。

(9) 施策6-1 地球温暖化対策の推進

- 行政が自ら省エネルギー化に積極的に取り組んでいる姿勢を市民に見せることが大切。それにより市民の環境問題への意識が高まる。
- 「現状と課題」の1つ目にある国の目標達成に市を挙げて取り組んでいくのであれば「主な取組」の内容では説明が難しい。尾張旭市の地球温暖化対策実行計画に区域施策編を策定し取り組んでいく旨を加える必要がある。
- 「めざす姿」の主語が「市民や事業者」となっています。この分野は行政が率先して行う必要があるのではないか。
- 「市民・地域等の取組」の地域や団体等の取組の最後の項目には「ウォームビズ」を加える必要がある。
- 「市民・地域等の取組」の市民の取組の2つ目にある「自動車に限らず」については、水素や電気などのエコカーもあるので、表現の工夫が必要である。
- 「主な取組」の2つ目の「公共施設の省エネルギー化の促進」に「最新の省エネ技術を取り入れ」のような言葉を足しても良い。
- 基本目標に「よりよい生活環境を将来世代に継承していく」と書かれているので、「主な取組」に環境教育を加えると良い。
- 市内の小中学校には冷暖房が設置され、二酸化炭素の排出量が増えていると思うため、学校の屋上に太陽光パネルを設置するなどの取組が必要ではないか。
- 遮熱フィルムや断熱フィルムを設置することによりエネルギー効率を向上させることができる。

(10) 施策6-2 環境衛生対策の推進

- ペットは子育て世代や高齢者世帯など、家族同様に大切な存在であるため、ペットが及ぼす課題と必要性の両立を意識した記載になると良い。
- 「指標」の3つ目が何の修繕件数なのか分からないので修正が必要ではないか。

(11) 施策6-3 資源循環型社会の推進

- 一般家庭のほか、ごみの排出量が多いのは飲食店などの事業者であるため、事業者でもしっかりと分別されると良い。
- デジタル技術の活用によるペーパーレス化もごみの発生抑制につながる。計画書のどこかに記載があると良い。
- リサイクルセンターの移転により、「リユース」の面が後退したと感じている。行政でできないのであれば、民間のリユース会社を広報紙で紹介しても良いのではないかと思う。
- 資源循環型社会の推進のためには、転入者に対してごみの分別を丁寧に伝える必要がある。
- リサイクルセンターの移設に伴って「環境学習施設」がなくなってしまった。環境学習を進めるのであれば、その代替措置を明記した方が良い。
- 「主な取組」に「リサイクル」や「リユース」という言葉が出てこないことに違和感があるので、掲載を検討してほしい。
- 「主な取組」の1つ目の「たい肥化」については学校給食センターなどでも取り組んでいると思う。こどもたちや市民に発信すると良い。
- ごみの分別などは、一人ひとりのモラルの問題であると思うので、こどもたちへごみの減量に関する教育を積極的にすると良い。

(12) その他

- 「めざす姿」と「現状と課題」があり、それに対する「取組」の順にレイアウトしたほうが理解しやすくなるのではないか。
- 行政が取り組む「主な取組」と市民や地域が取り組む「市民・地域等の取組」がある。「市民・地域等の取組」は、公私協働して取り組んでいかなければいけない分野もある。このため、「主な取組」と「市民・地域等の取組」の関連性が分かると良い。
- 「めざす姿」と「現状」のギャップが「課題」となる。「主な取組」が「めざす姿」の次にレイアウトされているので、課題を分析した取組となっているのかが分かりにくいのではないか。
- 「現状と課題」と「主な取組」の関連が、市民の方にも分かりやすい順番でレイアウトしてはどうか。
- 行政が行う「主な取組」に関する指標はアウトプット、事業実績で評価し、公私協働での取組の指標はアウトカムとすると分かりやすくなるのではないか。
- 「現状と課題」は、計画を策定する上で必要な情報であるが、計画書に掲載することで市民に分かりづらくなるのであれば、掲載しないこともあり得る。市役所の各課、各係の人たちには丁寧に説明していくことが必要。
- 「現状と課題」とあるが、「課題」のみが記載されているものが多いため、「現状」は不要ではないか。
- 「指標」とあるが、基準値と目標値が設定されているため、「指標指針」としてはどうか。

- 「まちづくりの基本方針」にある言葉や方向性を「施策別指針」にも浸透させ、言葉にする必要がある。